

これからの時代に活躍できる 未来の自分のために！

進学先を決めるとき、あなたにとって大切なことは何ですか？

これからの社会は、目まぐるしく変化していきます。

どのような時代になっても対応できる自分になるために、
海外の大学も進路の選択肢の一つとして考えてみませんか。

GE-NET20 海外大学等進学支援



オックスフォード大学



東京都教育委員会
Tokyo Metropolitan Board of Education

これからの時代に求められる人材には、 コミュニケーション能力と思考力、 そして創造力が大切です。

海外留学では、異なる文化の中で生活することに挑戦します。
様々な体験を通じて多くの力を自然と身に付けることができます！

海外留学によって得られる力

コミュニケーション能力

コミュニケーションの基本は相手を知ること。異文化を理解し、異なる考え方や見え方が分かれば、互いの理解も深まります。多様な意見を聞くことで、幅広い柔軟な視点をもって対話できる力が身に付きます。

思考力・発信力

海外の授業は常に意見を求められる、考えるトレーニングの連続です。プレゼンテーションやエッセイ等の課題も多いため、自分の意見をもつこと、発信することができます。積極的に身に付けることができます。

語学力

授業時間はもちろん、休み時間の会話も全て現地の言葉。日本でも語学は学べますが、日々使用することにより生活に根差した自然な言い回しができるようになります。言葉による壁は徐々に取り除かれるでしょう。

創造力

これからの時代は予測できない、前例のないことが起こる時代とも言われ、そうした環境下で新しいことを考え、作り出す力が求められます。留学は新しい体験の連続で、ゼロからイチを生み出す創造的な力が自然と鍛えられます。

世界に広がるネットワーク

世界中から集まってくる留学生や現地の学生と友達になることができます。卒業後も交流を続けることができれば、世界で起こっている出来事をいち早くキャッチし、互いの立場で意見交換ができるような関係性も築けます。

ホントに行ける？ ココが心配！ 海外の大学進学

一見ハードルが高く見える海外の大学。
自分が留学するなんて無理だ、と思っている人もいるかもしれません。
でも、仕組みを知って準備をすれば大丈夫！

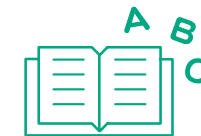
入試



入学試験がない

海外の大学のほとんどは、書類審査で合否が決まります。入試対策の心配はありませんが、普段の学習を頑張り、どの教科もバランスよく力を付けておきましょう。

英語力



留学前に英語力UP!

海外の大学に入学するためには、英語力があることが必要条件です。多くの大学には附属の語学(英語)コースがあるので、渡航してから英語力を高めることもできます。高い英語力があれば、出願できる大学も広がります。

※国や場所により、英語以外の言語が必要となる場合もあります。

治安



ルールを守って行動を

大学に入学すると、安全に学生生活を送るためのオリエンテーションが行われます。そこで得た情報に従い、ルールを守って行動することが大切です。

将来



留学で選択の幅が広がる

最近では海外の大学を卒業する学生向けに、採用面接や入社時期を柔軟にする企業が増えています。グローバルな人材を求める国内外の企業も多く、オンラインの就職活動のイベントも充実しているため、就職先の選択の幅が広がっています。

費用



保護者と相談を

学費、生活費について、保護者としっかり話し合いましょう。入学から卒業までのトータルの期間を考えておく必要があります。

●大学の1学年(9か月)の平均的な授業料と滞在費

国名	授業料	滞在費
アメリカ	70万円～930万円	130万円～300万円
カナダ	170万円～700万円	100万円～220万円
イギリス	220万円～730万円	120万円～230万円
オーストラリア	200万円～450万円	110万円～140万円
ニュージーランド	240万円～420万円	100万円～120万円
マレーシア	60万円～120万円	40万円～80万円
台湾	35万円～70万円	30万円～50万円

US 150円、CAN 113円、GBP 193円、AUS 100円、NZ 95円、MYR 32円で計算

奨学金

留学生に向けた様々な奨学金があります。代表的なものは、(独)日本学生支援機構による奨学金です。その他、地方自治体や外国政府による奨学金、民間団体、入学する大学の奨学金などがあります。

(独)日本学生支援機構

■学位取得型奨学金(返済不要)

海外の大学を卒業して得られる学士号を目指して留学する方を対象とした奨学金。
・9月頃募集要項を公開、10月中旬に応募を締め切ります。
・原則4年間、月額奨学金と授業料を支給します。



■貸与奨学金(返済必要)

返済が必要な奨学金で、海外の大学に進学する前に申し込む方法(予約採用)と、進学後に申し込む方法(在学採用)があります。



ローン

海外留学に適用できる教育ローンを利用して、費用を借りることも可能です。条件は金融機関ごとに異なるので、Webサイト等で確認しましょう。無理のない返済シミュレーションを作ることが大切です。

国の教育ローン 日本政策金融公庫



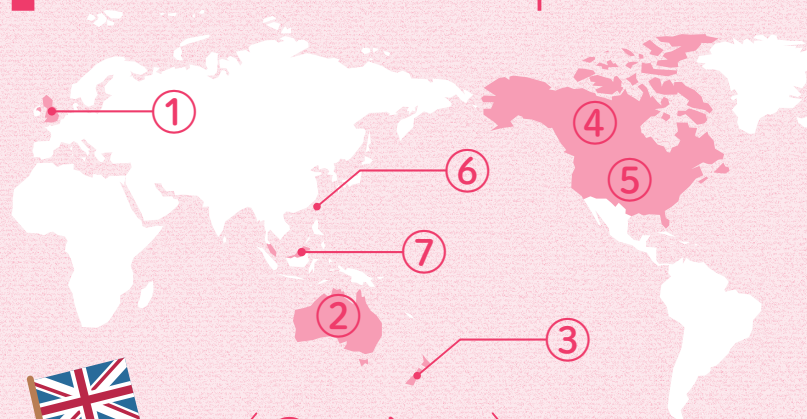
大学生・社会人になってからの留学

海外の大学に進学しなくても、日本の大学からや社会に出てから、海外の大学や大学院などへ留学する人も多くいます。

	短期留学	交換留学	大学留学	大学院留学	その他
大学生	○	○	○	○	○
社会人	○	—	○	○	○

世界の 高等教育制度

海外の高等教育制度は、日本と異なります。
海外進学等で人気の国の制度を見てみましょう。



① イギリス

イギリスには約160校の大学・カレッジがあり、ほとんどが国公立です。大学は通常3年間で専門課程を集中して学ぶため、日本からの留学生は約1年間の大学進学準備コース(ファウンデーションコース)*を経てから入学します。大学教育は900年以上の長い歴史があり、世界トップクラスの名門大学も数多くあります。カレッジでは職業教育に特化したスペシャリストを養成します。

情報収集に役立つサイト **Discover Uni**
<https://discoveruni.gov.uk/>

ヨーロッパ (EU)

英語で授業を行う大学が多く、例えばドイツでは1,000を超える修士課程で英語での学位取得が可能です。現地学生と留学生が同じ授業料で学べる国もありますが、州や大学により異なる場合もあります。学士号の取得には基本的に3~4年かかります。

② オーストラリア

オーストラリアには約40校の大学があります。留学生に関する教育の権利や環境を定めたESOS法など、国を挙げて体制づくりを行い、海外からの学生を受け入れています。大学はイギリス同様1年間の大学進学準備コース(ファウンデーションコース)*や、パスウェイと呼ばれるコースを経て進学をします。

情報収集に役立つサイト **Study Australia**
<https://www.studyaustralia.gov.au/japanese/home>

③ ニュージーランド

国立総合大学が8校、また職業に直結した教育を行う工科大学やポリテクニクが16校あります。政府は教育の質を保つために大学の数を増やさない方針を掲げています。学部課程は通常3年間で、日本からの留学生は1年間の大学進学準備コース(ファウンデーションコース)*を取るケースが一般的です。

情報収集に役立つサイト **New Zealand Education**
<https://www.studywithnewzealand.govt.nz/ja>

その他にも、様々な国や地域への留学が可能です。

*大学進学準備コース(ファウンデーションコース)とは
イギリス、オーストラリア、ニュージーランドの3カ国では、大学は専門課程のみを教えます。そのため、事前に入学するために必要な知識を身に付けます。学ぶ内容は専攻分野の基礎知識と、リサーチ方法やディスカッション、レポートや論文の書き方などの「アカデミックスキル」と言われるもので、期間は通常1年間です。

④ カナダ

カナダには約100校の大学があり、ほとんどが公立です。2年制大学と4年制大学があり、またその両方の機能を兼ね備えた大学も多くあります。州ごとに編入システムは異なります。カナダは「世界でもっとも住みやすい都市ランキング」でランクインする都市が多く、住みやすさも特徴の一つです。

情報収集に役立つサイト **Universities Canada**
<https://www.univcan.ca/>

⑤ アメリカ

アメリカには、公立・私立併せて4,000校以上の大学があります。2年制大学と4年制大学があり、学べる分野が幅広く、大学進学に挑戦しやすいのが特色です。フレキシブルな教育制度があり、比較的入学しやすい2年制大学から4年制大学へ編入できる制度が整っています。専攻分野の決め方が日本とは異なります。日本では大学受験時に専攻を決めますが、アメリカでは入学後にじっくり考えて決めることができます。

情報収集に役立つサイト **College Board**
<https://www.collegeboard.org/>

⑥ 台湾

台湾には約150校の大学があります。総合大学と、職業に直結する専門的な知識やスキルを学ぶ科技大学があり、それぞれ公立・私立があります。大学は基本4年間で修了します。新学期のスタートは9月で、授業は基本中国語ですが、英語のみで学べるコースや日本語コースもあります。

情報収集に役立つサイト **日本台湾教育センター**
<https://tecj.tku.edu.tw/jp/>

⑦ マレーシア

マレーシアには国立・私立併せて100校以上の大学があり、ほとんどの私立大学で英語で授業を行っています。欧米と比較して年間の学費が安価なことが特徴の一つ。イギリスやオーストラリアなど他国の大学へ編入することも可能です。

情報収集に役立つサイト **Education Malaysia Global Services**
<https://educationmalaysia.gov.my/>

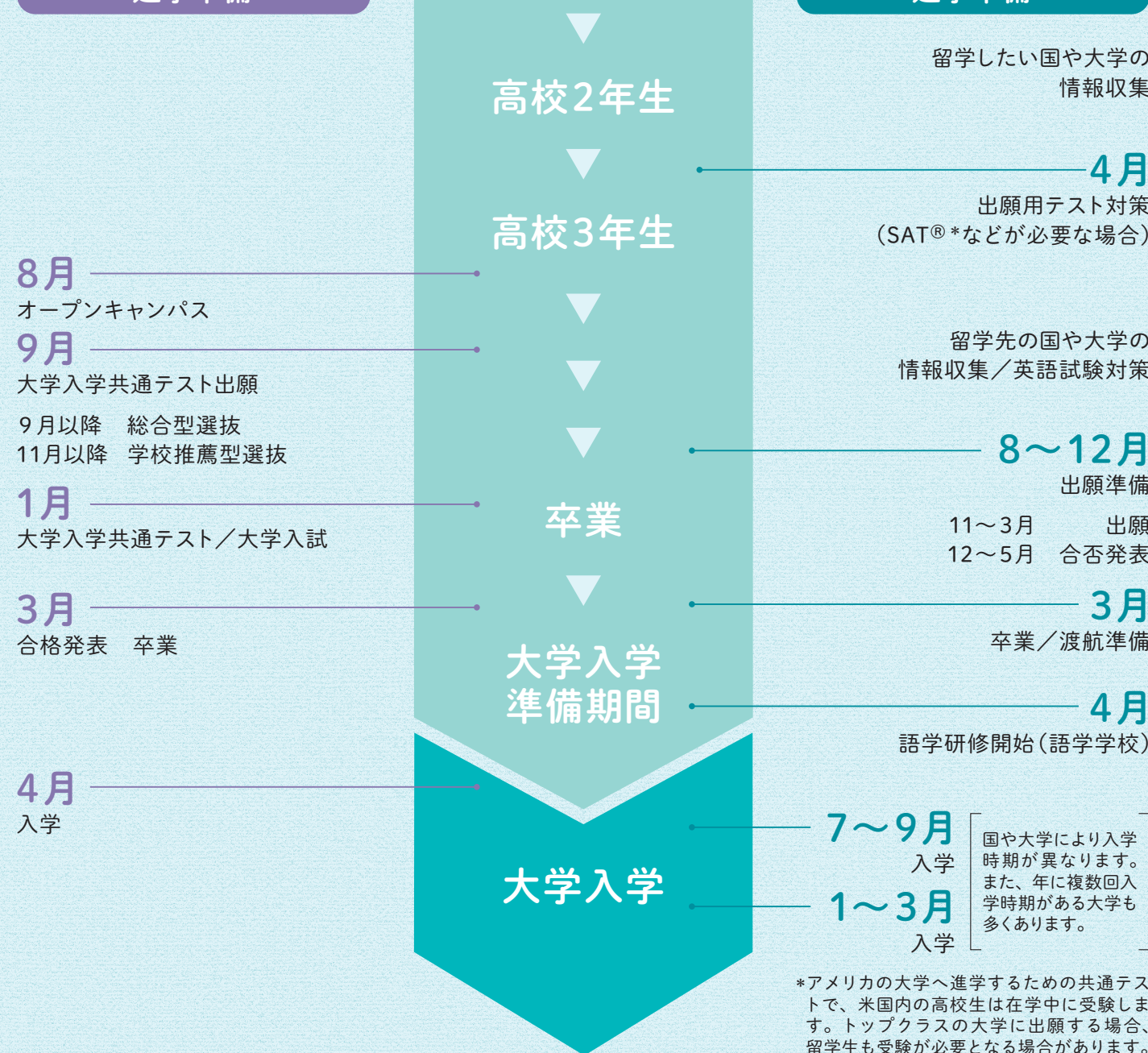
進学 スケジュール

海外の大学は、多くの場合、書類審査で合否が決まります。一部の名門大学を除き大学ごとの出願対策が必要ないため、日本の大学と海外の大学を併願することも可能です。

進学スケジュール

国内の大学 進学準備

海外の大学 進学準備



日本の大学と併願する場合の注意点

（出願前の情報収集が大切）

日本の大学受験準備と同時に、海外の大学への出願にどのような書類が必要かを各大学のウェブサイトの出願情報で調べ、早めに準備をスタートしましょう。出願時に預貯金の残高証明や、TOEFL®やIELTS™のスコア提出が必要な大学もあります。

知っておきたい！ 出願書類&準備

最も大切なのは、日頃の学習の成果となる高校の成績です。学習を頑張ることで、より多くの選択肢が広がります。英語やその他の準備も、少しずつ進めましょう。

英語力

まずは進学したい大学の基準到達を目指そう

出願するためには、大学の授業を受けられる英語力があることを証明することが必要です。リスニング、リーディング、ライティング、スピーキングの4技能が求められ、ほとんどの大学でTOEFL®やIELTS™などのスコアが出願時に必要です。それぞれのスキルに必要なスコアレベルを設定している大学もあるので、希望する大学の出願条件を確認し、そのスコアに到達するための計画を立てましょう。

スコアの目安：

2年制大学 TOEFL iBT® 46～61、IELTS™ 4.5～5.5
4年制大学 TOEFL iBT® 80～100、IELTS™ 6.0～7.0

TOEFL®

アメリカをはじめ、世界の大学で採用されている英語力テスト。日本ではインターネット版のTOEFL iBT®テストが実施されており、試験会場でパソコンを使用して解答する。

IELTS™

イギリス、オーストラリアなど世界の大学や国際機関で採用されている英語力テスト。スピーキングは面接形式、その他3技能は筆記形式。またスピーキング以外はパソコンを使って行う、IELTSコンピューター版もある。

成績

高校での頑張りが最も大切

海外の大学は、入学試験ではなく書類審査を行います。そのため重要なのは、日頃の学習の成果です。エッセイや推薦状が必要な大学も、高校の成績は必ず提出します。日頃から積極的に学習に取り組み、どの教科もバランスよく学習し、力を付けていきましょう。日本の大学への進学を目指す場合も、海外の大学への進学を目指す場合も、大切なのは目標をもって主体的に学び続けることです。

エッセイ

自分の考えを伝える

大学によってはエッセイの提出が求められる場合があります。テーマは「なぜその大学に進学したいのか」「その大学で何を学びたいか」などが一般的です。自分の考えを伝えることができるよう、エッセイを書く練習をするとよいでしょう。

推薦状

先生に作ってもらう必要も

主にアメリカの4年制大学に出願する際に、提出が求められます。推薦状が必要な場合、担任の先生や、英語の先生に依頼しましょう。2通以上必要となる場合もあります。英語で作成するものなので、時間に余裕をもって依頼しましょう。

世界の大学へ 進学するのも夢じゃない！

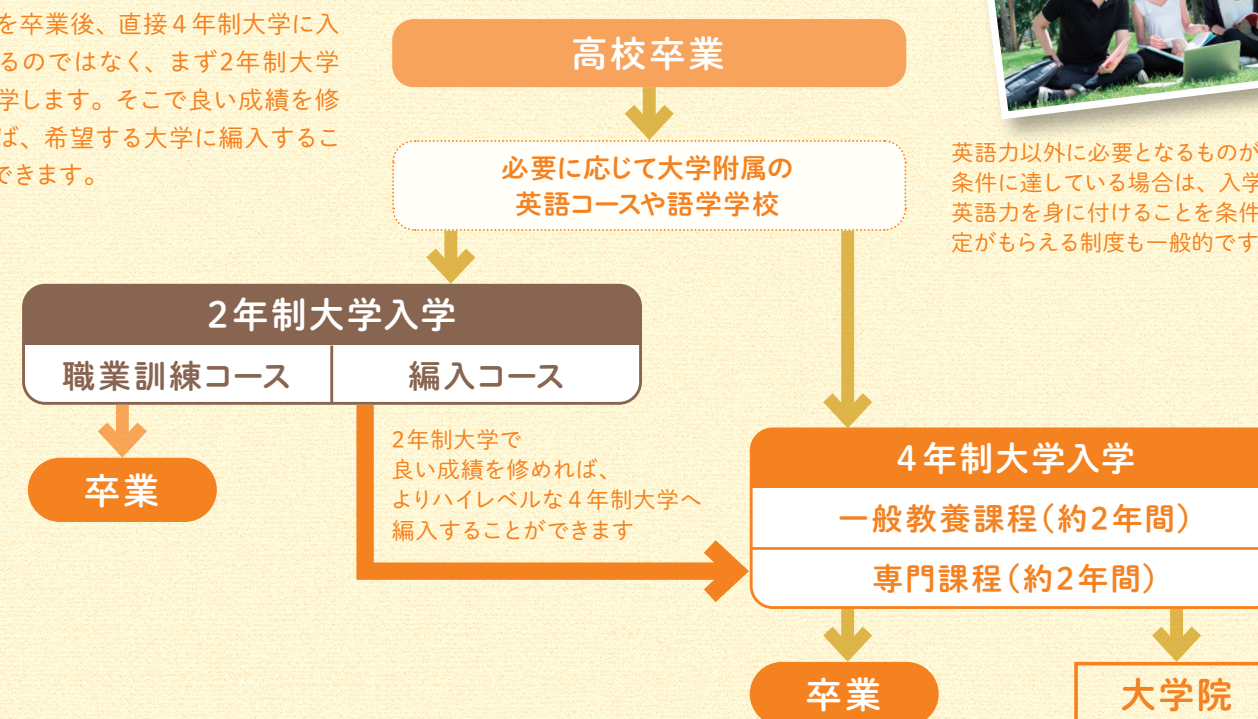
自分には海外の大学への進学は難しいと諦めてしまう人もいるかもしれません。しかし、これからの頑張りで、進路の選択肢を増やすことができます。



英語力以外に必要なものが全て合格条件に達している場合は、入学時までに英語力を身に付けることを条件に合格内定がもらえる制度も一般的です。

アメリカ・カナダの場合

高校を卒業後、直接4年制大学に入学するのではなく、まず2年制大学に入学します。そこで良い成績を修めれば、希望する大学に編入することもできます。

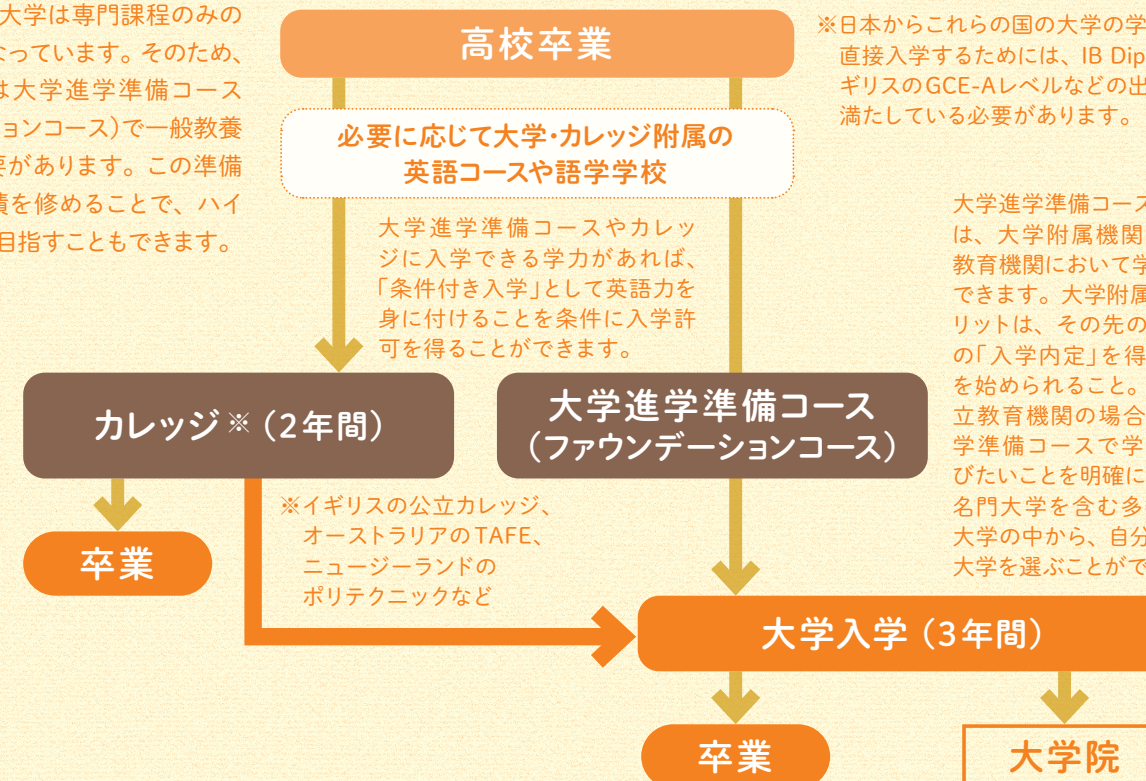


イギリス・オーストラリア・ニュージーランドの場合

これらの国では大学は専門課程のみのカリキュラムとなっています。そのため、日本の高校生は大学進学準備コース(ファウンデーションコース)で一般教養課程を学ぶ必要があります。この準備課程で良い成績を修めることで、ハイレベルな大学を目指すこともできます。

※日本からこれらの国の大学の学部課程へ直接入学するためには、IB DiplomaやイギリスのGCE-Aレベルなどの出願条件を満たしている必要があります。

大学進学準備コースについては、大学附属機関又は私立教育機関において学ぶことができます。大学附属機関のメリットは、その先の大学からの「入学内定」を得て、留学を始められること。一方、私立教育機関の場合、大学進学準備コースで学ぶ間に学びたいことを明確にしながら、名門大学を含む多数の提携大学の中から、自分に適した大学を選ぶことができます。



先輩たちの体験談

ひと足早く海外の大学で学んでいる
先輩たちの体験談を聞いてみましょう。



国際的に強い研究力をもつ大学での
歴史や社会学も交えた深い学びが成長の糧となります

安部眞佳さん

ロンドン大学ユニバーシティ・カレッジ(UCL)/イギリス

2020年3月 東京都立小石川中等教育学校卒業

2020年4月 UCL進学準備コースを経て大学入学

2024年6月 卒業予定



高校卒業後の進路について「新しいものに触れて刺激を受け続けたい」、また日本の政治への興味から「日本を外から眺めてみたい」と考えていました。学校のプログラムで海外に滞在した経験があり、その時に感じたワクワクする気持ちをさらに追及したいと思い、海外進学を決めました。

国や進学方法の検討から始め、進学準備コースがあり、国際的にも強い研究力が認められているロンドン大学ユニバーシティ・カレッジ(UCL)への出願を決めました。イギリスの大学の志望動機書は学問での経験を重視すると言われており、私も高校でのリサーチ活動と大学で学びたいことを関連付けて作成しました。進学に当たり、日本学生支援機構をはじめとする複数の奨学金にご支援をいただいています。

UCLは非常に国際的な大学で、様々なバックグラウンドをも

つ教授が分野を横断するように授業を提供しています。私は政治・国際関係論中心の履修ですが、これらの分野は社会学・歴史学等と深く関連しており、大きな大学で分野をまたいで考えられること、英語圏で今発展している研究に触れ続けられることは常に成長の糧となります。英語も円安も大変なことは尽きませんが、UCLで学べたことは非常に幸せです。

中等教育学校に進学した当初は、海外の大学に行くとは思っていませんでした。私は環境に恵まれましたが、「手が届かなそう」と思うような進路でも、手を伸ばし続ければ意外と届くのかもしません。皆さんにとって納得のいく進路を選択できるよう祈っています。



同じ目標をもち、高い目標を目指す友人が
ここには大勢います

山田佳怜さん

カリフォルニア大学バークレー校(UCB)/アメリカ

2022年3月 東京都立白鷗高等学校卒業

2022年8月 カリフォルニア大学バークレー校入学

2026年5月 卒業予定



高校時代に次世代リーダー育成道場*という東京都教育委員会が実施するプログラムに応募し、ミシガン州の高校に留学しました。そこでの授業をきっかけに遺伝子学に興味をもち、海外の大学という道を考え始めました。

応募する大学は学びたい専攻があり、研究室が充実しているところからしぼり、同時に奨学金も探し始めました。

アメリカの大学は成績だけでなく、課外活動などを含めて総合的に判断されるため、結果が予想しづらい部分があります。「自分が大学に合っているかどうかは大学が判断する」と言われるほどなので、幅広く応募しました。

合格した中で、選んだのはカリフォルニア大学バークレー校です。ここは学生数が多く、4万人以上もいるため、当たり前のように競争があります。例えば研究室が手伝いを募集すると、多数が応募し、結果少数しか採用されません。しかし心配することはなく、普通の授業では「協力しあって、

皆でAを取ろう!」という雰囲気があります。教授に質問があるけれど別の授業で行けない、という時は、友人が「代わりに聞いておいてあげる。分かったら教えるね」と言ってくれることもあります。

高校時代、同じ目標の人はいませんでしたが、ここには大勢います。研究者がパネリストとして登壇したり、ノーベル賞を取られた教授の授業が必修になっていたりと、最新の知識を毎日学ぶことができます。

皆さんには海外の大学は難しそうだから、と諦めないでほしいと思います。私は、留学して自分の世界が大きく広がりました。海外に必ず行くべきということではありませんが、ぜひ今の高校生には海外の大学進学という選択肢があることを知ってもらいたいと思います。

※次世代リーダー育成道場 Web ページ

<https://www.ryu.kyoiku-kensyu.metro.tokyo.lg.jp/>

GE-NET20
海外大学等進学支援
公式ホームページ

<https://global-edu.tokyo/>

令和6年5月

発行 東京都教育庁 グローバル人材育成部 国際教育企画課
〒163-8001 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
電話 03-5320-6865
編集 留学ジャーナル

リサイクル適性 (A)

この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。